

伊勢・三河湾貧酸素情報 (R4-15号)

令和4年10月7日

愛知県水産試験場 漁場環境研究部

令和4年10月5、6日に伊勢湾において貧酸素水塊の調査を実施しました。その結果は以下のとおりです。

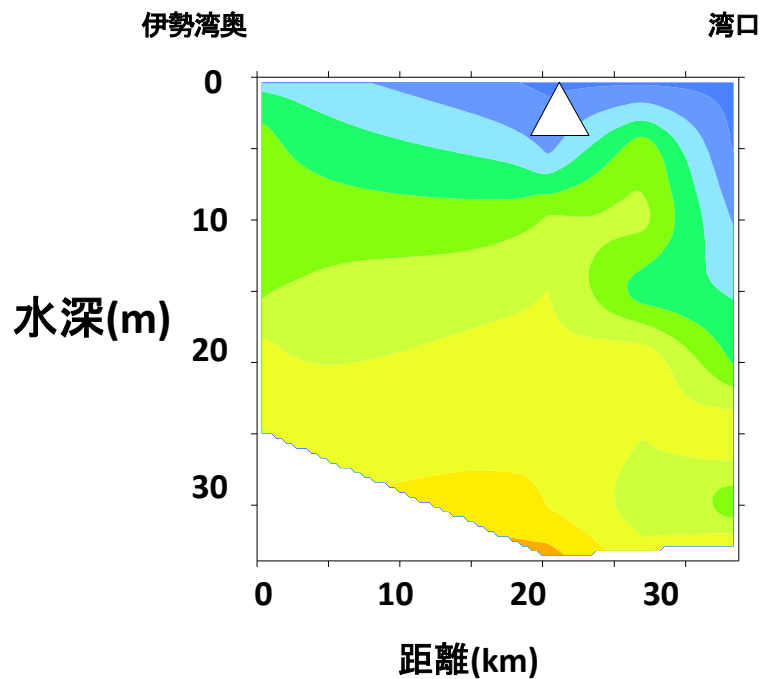
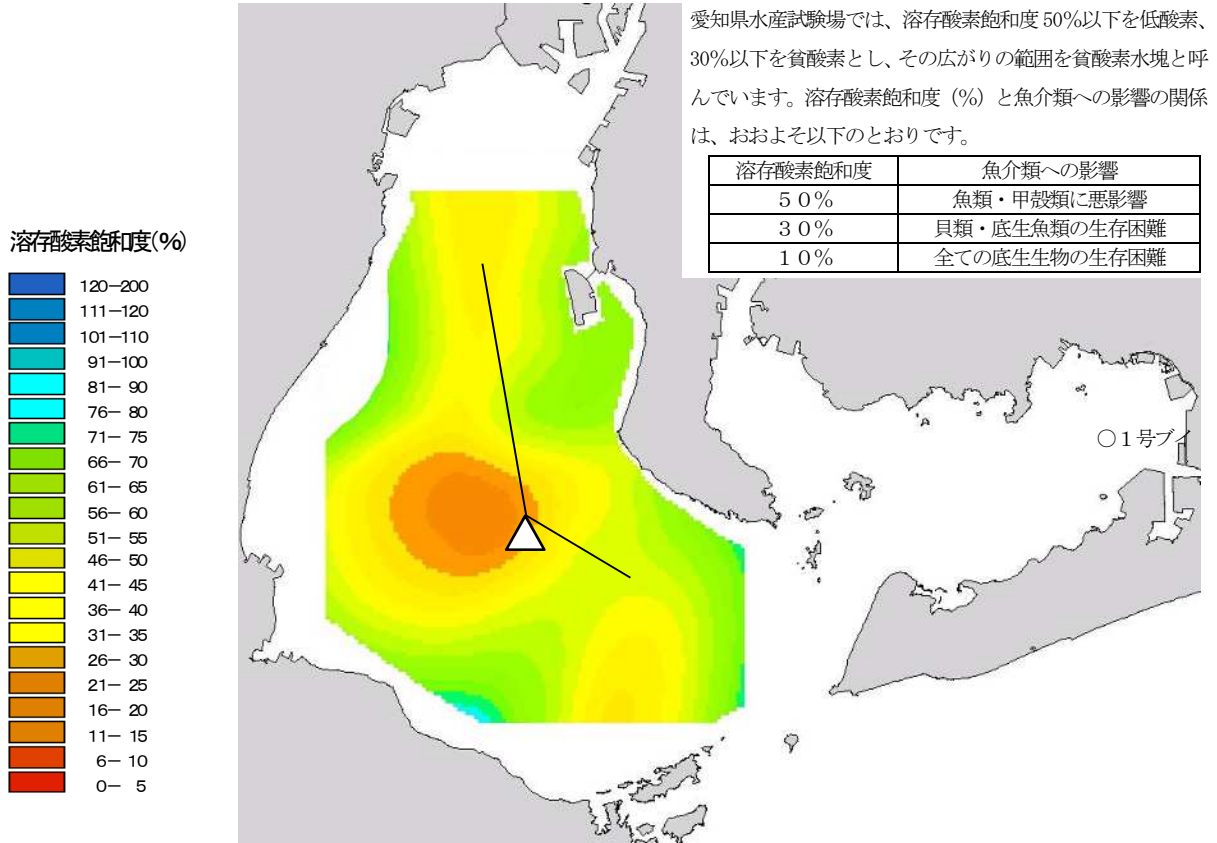


図1 伊勢湾(10月5、6日)底層の溶存酸素飽和度の分布(上図)及び上図直線部分の鉛直分布(下図)
(愛知県「海幸丸」調査)

伊勢湾

10月5、6日の調査結果を図1に示しました。伊勢湾の湾央で溶存酸素飽和度30%以下の貧酸素水塊が確認されました。前回調査時（9月5日：図3）と比べると、貧酸素水塊は縮小していました。

今後は気温の低下に伴い、徐々に表層水温が低下し、鉛直混合が進むことで貧酸素水塊は解消していくと予想されます。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	23.2~25.1	23.4~28.9
底層	22.1~24.8	30.7~33.2

三河湾

三河湾海況自動観測ブイ（1号ブイ、蒲郡沖）のデータによると、9月27日以降、貧酸素水塊が発達し、30日には水深5m付近まで達していましたが、5日夕方以降は貧酸素水塊の規模が縮小していました（図2）。10月初旬以降、表底層間の密度差が小さくなっていったところに、5、6日の強風（蒲郡市で最大瞬間風速約10m/sの北風）の影響により、海水が上下混合し、貧酸素水塊が縮小したものと考えられます。また、この強風に伴い、5、6日には蒲郡市沿岸で苦潮が確認されました。

今後は気温の低下に伴い、徐々に表層水温が低下し、鉛直混合が進むことで貧酸素水塊は解消していくと予想されます。一方で湾奥では、強風に伴う苦潮に注意が必要です。

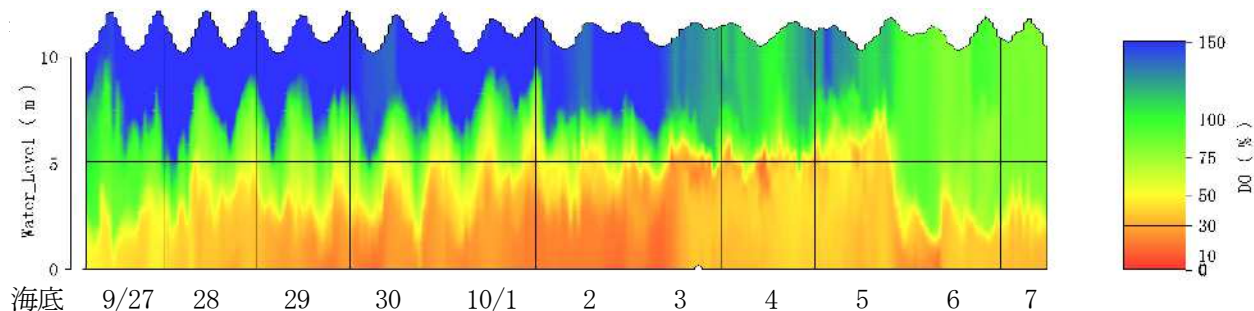


図2 溶存酸素飽和度（DO）の経時変化（三河湾海況自動観測ブイ、1号ブイ）

参考

前回調査時の伊勢湾底層の溶存酸素状況

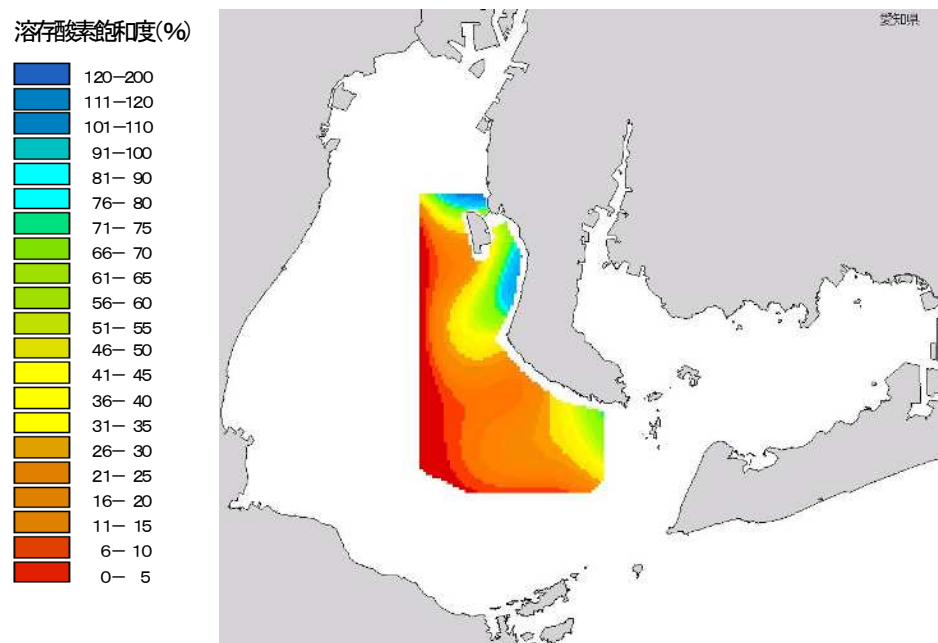


図3 令和4年9月5日（伊勢湾）